

ローカルLLM **も** 有効な選択肢

クラウド活用が進む今だからこそ、開発工程で考える生成AIの使い分け

クラウド型LLMを上手く活用する企業が増える一方で、ものづくりの現場では、セキュリティやバージョンアップによる動作差分への懸念から、開発工程への適用方法を模索する企業も少なくありません。

クラウド型LLMを
開発工程への適用で企業が
躊躇する理由

- ⚠️ 再現性が保証できないリスク
- ⚠️ 料金・提供条件が変わるリスク
- ⚠️ 機密情報を外に出せないリスク
- ⚠️ API制限・利用条件変更のリスク
- ⚠️ ネットワーク依存性のリスク

当社は、クラウド型LLMとローカルLLMを使い分けることを前提に、ローカルLLM“**も**”有効な選択肢になり得ると考えています。

NSKの3つのスタンス

≫ 下流工程への集中適用で効果を最大化

詳細設計

実装

テスト

作業の共通性が高く、工数ボリュームも大きいため生成AIの効果を実感しやすい

≫ 導入だけで終わらせないトータルサポート

≫ 明確なポジショニング

現場での実運用

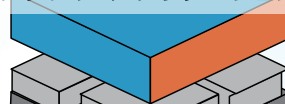


構築を
ゴールにしない



継続的な運用・改善

コンテンツ・アプリケーション層



プラットフォーム層

自社開発する

自社開発しない

当社の技術力・支援力を判断いただくためのサービスです。

技術交流会・品質交流会



技術・品質交流会は弊社の実力を知ってもらうために商談活動の一環として行っているサービスです。

テクニカルサポート



40時間35万円のサービスで技術サポート(レビュー・問題解析、教育)を実施します。

※40時間以上であれば契約時間は調整可能

